

発見！白井の仕事人 72

削る・切る・曲げる・新たなものを創ります

(株)平林

曲げやすくしたりする「プレーナー加工」を得意としています。創業してからはエレベーター内装で使うステンレスの気密性を高め、音を小さくしたり、気圧を一定にするため、精密な加工を行ってきました。

現在では、加工部が360度回転し、動きながらレーザーによって切断する「3次元レーザー加工」や鋼板を曲げることのできる設備とそれらを使用することのできる技術者も一緒に採用し、複雑な加工を一手に行っています。加工した部材は、ディスプレイランドや羽田・成田空港などの階段の手すり、その他各種内装といったさまざまな用途で使われています。

『削る・切る・曲げる』といってもいろいろありますが、まずは何でもやってみること。その姿勢を見てもらうことで、次もこの会社に頼んでみようと思ってもらえる」と仕事への姿勢を語る平林さん。

最後に今後の抱負を「自分の代では、やり切りました。次の世代に期待しています。ここで働きたいと考えてくれる人がいたら、ぜひ連絡してください」と話してくれました。



(株)平林の外観

今回は、白井工業団地に工場を構える(株)平林を紹介します。

同社は、金属の切削を得意とし、ステンレスの装飾金物を制作している会社から複雑な形状を求められ、それに応える材料を作っています。

創業者で現会長の平林さんに話を聞きました。

この会社は、昭和45年に東京都江戸川区で平林さんが、個人で切削加工を行ったのが始まりで、昭和53年に設立しました。その後、埼玉県三郷市に第二工場をつくりましたが、需要が多く、さらに大きな工場を考えたときに白井工業団地のことを知り、三郷工場を閉鎖し、平成12年に白井工場が作られました。

平林さんは「広い白井工場では、今までできなかった大きなものの加工もでき、発注が殺到した」と語ります。

切削加工は、切削工具類を用いて対象物を切り削る加工方法で、中でも同社では、大工がするカンナがけのようにステンレスを薄く削りだすことで、表面を平らできれいなものに仕上げたり、V字の溝を入れることで



工場内

図 産業振興課商工振興班 内線 3241